

各地の話題 色麻町

2026年2月6日号掲載

全国農業
新聞
NATIONAL
AGRICULTURAL
NEWS

「守る」仕事から「育てる」仕事へ 地域おこし協力隊を経てりんご農家へ転身

色麻町小栗山地区の南山果樹園でリンゴの栽培に取り組む太田幸啓さんは、念願のりんご農家になるため、令和7年4月から町内農家からりんご畑の一部を借り受け、令和10年度を目標に独立を目指している。

太田さんは仙台市若林区の出身。幼少期に父方の実家で近所の果樹農家からもらった果物の美味しさに感動した経験が、果樹農家を目指したきっかけだ。

令和4年度に町の農業支援員の地域おこし協力隊の募集に興味を持ち、移住した。隊員時代は地元りんご農家の助言と指導を受けながら、令和6年度までリンゴの剪定や摘果、防除といった基礎的な作業を中心に栽培に従事した。

現在は約30畝でふじやつがる、ジョナゴールドなど5品種を栽培している。陸上自衛隊に所属していた経験から「訓練で培われた体力や精神力が栽培に活かされている」という。

今後は経営や病気への対処法、品種ごとの栽培方法を学んでいく太田さん。「りんごは手間をかけると収穫時期に答えが帰ってくる。お客さんからおいしいと言われるものを作れた時が1年間の成果とやりがいを感じられる」と話す。

収穫したりんごを手にする太田さん



収穫した「つがる」



【記事提供】 色麻町農業委員会